

# 令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園 中央動物看護専門学校

## 学校関係者評価委員会

中央動物看護専門学校 学校関係者評価委員会は「令和4年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和5年7月12日に実施したので、下記のとおり報告します。

### 1. 学校関係者評価委員

- 企業等委員：鈴木 正知 (NPO法人前橋環境保全基地 アリスの森)  
企業等委員：奥野 征一 (ACORN 獣医神経クリニック)  
保護者会：齊藤 由美子 (中央動物看護専門学校 保護者会)

### 2. 学校関係者評価委員会の流れ

学校関係者評価委員会では、自己点検について説明し、評価結果について検討いただきその評価を検証していただくとともにご意見ご助言等を頂いた。

### 3. 令和5年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央動物看護専門学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目標	●教育理念・目標についての取り組みは概ね達成しているが、引き続き業界研究が求められる。	○教育課程編成委員会における指摘事項を踏まえ、社会から求められる人材の確認は継続して実施。また、新たな知識・技術を積極的に取り組み反映させる。
2. 学校運営	●専任教員の担当コマ数が多い。 ●時間的余裕がなく、情報共有が不足している。	○専任教員のコマ調整を行うと共に、人員の募集計画を立てている。 ○情報共有をする日時を予め設定し、定期的実施できるように計画を立てる。
3. 教育活動	●動物を取り巻く環境は年々変化していることを踏まえ、常に動物業界で必要とされる人材の教育方法について工夫改善が求められる。 ●データ配布されている講義要項が有	○教育課程編成委員会等でいただいたご意見を参考に最近の動向を教育内容に取り入れていく。 ○講義要項を教室内に配布し、確認できるようにする。

	効に活用されているか不明瞭である。	
4. 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業後の就職支援については実施しているが、動向把握の方法が確立できていない。</li> <li>●オープンキャンパス時に卒業生に来てもらう、学園新聞などの取材で訪問するなど、キャリア形成への効果を確認するまでには至っていない。</li> <li>●システム上に成績証明書等があるが、工夫を加える等の変更がしにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業生によるキャリア形成に関する講義を行う予定。</li> <li>○仕事を探している卒業生に対しては求人情報を提供している。また、卒業後の状況調査を就職指導センターと協力して実施。LINEグループの登録を徹底し、卒業後も継続して有効活用する。</li> </ul>
5. 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会人からの問い合わせに対してオンラインや対面に対応し、入学に繋がっている。今後更なる入学者数増に繋げる。</li> <li>●カリキュラム上、他学科への編入が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているかについて、社会人入試制度があるが、利用者を増やす策としてホームページへの掲載やチラシの利用などわかりやすく表記し、外部へのさらなる周知をしていく。</li> </ul>
6. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設・備品についての管理・点検はされているが、修理・補充などに時間がかかってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設・設備に関して最先端の教育環境の整備は必要ではあるが、予算的にも優先順位をつけて段階的に整える。また、学生数に応じたネットワーク強化工事を実施する予定。</li> <li>○多くの実習先を確保し、学生の就職内定に繋げることができている。</li> </ul>
7. 学生の受入れ 募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入学者の増加に伴い、学力の不足や障がいを抱えた学生が見られるようになったが、まだ充分対応できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既に判明している学生については、サポート体制を確立させる。また、日々学生の様子を確認し、気になる言動や行動が見られた際には早めの対応を行う。</li> <li>○オープンキャンパスや個別説明の際、保護者に対して積極的に学校の義務責任等について説明をしていく。</li> </ul>
8. 教育の内部質保証システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育の内部質保証システムについては、概ね達成しているが、各項目についてより徹底した管理が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校マネジメントと教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会などを体系的・計画的に行うことで、P D C</li> </ul>

		Aが回るようにしてマネジメントの有効性を図っていく。問題点については判明次第、迅速に取り組み改善していくようにする。
9. 財務	中長期的に財政基盤を支えるため、入学者数の安定確保をいかに図るかが重要となる。	○本質的には「学生の夢（資格・検定と就職）を実現する」学校になることが募集力の決め手となると考え、教育と就職指導の質的向上を今後も目指していく。 ○外部機関による会計監査も定期的に適正に行われており、今後も継続して行う。
10. 社会貢献・地域貢献	●地域に対する公開講座が少ない。	○本校の教育資源を十分に活用して、社会貢献・地域貢献に参加できるよう、呼びかけや運用整備を進めたい。 ○地域貢献のため、地域清掃やボランティア活動の参加など積極的に進めている。
11. 国際交流	●外国人留学生の受け入れはない。	○特になし

### 3. 総評

外部の学校関係者評価委員に上記11項目に対し報告を行ったところ、委員による評価は良好であった。中央動物看護専門学校の教育理念・目標についての取り組みは概ね達成しているが、業界研究について業界自体が変わってきているので、関連企業や関連団体などまで広い視野を持っていただきたいとのご指摘をいただいた。学修成果について卒業後のキャリア形成として既卒者に対する知識的なサポートや新たな情報等を示す取り組みも良いとのご指摘をいただいた。これら指摘事項を踏まえ、社会から求められる人材の育成を継続し、新たな知識・技術を積極的に取り組み反映させる。また、既卒者のキャリア形成への効果を確認し社会人としてのスキルアップに結び付けていきたい。

今後、動物業界の変化に柔軟に対応しながら教育目標・計画を設定し、それに沿った教育として「やってみて考える」を実践できる環境づくりを強化することが求められる。

以上